

「風俗木彫人形シリーズ」 製作者（生産地）募集と それに伴う 今後の展開について

（木端こっぱ人形講習会）

[制作コンセプト]

少子化に伴い日本の山間地、末端の漁村集落などでは、後継者問題に加え経済基盤の脆弱化、集客力不足など活気がなくなり、かつてのバブル期の建物などの放置も目立つようになってきている。

一方でネットなどを頼りに、外国人観光客は日本の各地を旅する姿も見られるが、口コミで紹介された一部の地域に限られており、偏りがみられる。

また県内観光客も、せっかく見知らぬ農山村を訪れても、イベント時期以外は受け入れ態勢がなくその地域独自の文化などを見ないまま通過してしまうというのが現状である。

そこで、各地に残る風俗文化（働く作業風景、伝統の踊りなど）を目に見える形（風俗人形）として残し、かつこれを一定の規格のもとにシリーズ化販売することで、

- 1、地域文化、伝統文化の掘り起こしができる
- 2、各地域の世代間交流がうまれる
- 3、道の駅の個性化の推進、いままで未踏の地域にまで観光客を呼び込む
- 4、邦人だけでなく外国人コレクターを増やすことで、販売収入による地域活性化
- 5、制作地域間交流による人的流れをつくる
- 6、統一規格で県全体の一体感をはぐくむ

などを目的に生産地募集を行いたいと思います。

（場合によっては地域風俗に限らず、オリジナリティーあふれる創作人形もよい。）

[概要]

- 1、道の駅など拠点に生産組合を組織し各地域の自生する木端を使って、木彫り人形を制作。
- 2、指導には本職経験者、各地彫刻家やデザイナーがあたる。安価でも美術的完成品を目指す。
- 3、手ごろな価格、ポケットに入る大きさ（高さ6～12cm）を目安に販売。（1000円～5000円）ある程度企画を統一することでコレクターが生まれます。
- 4、優秀な制作者には指導者として認定し、後継者を育成していただく。

問合せ：上田市古里114-18 コゲラの里工房 徳武忠造0268-24-2304

携帯080-1066-2270 アトリエmail・kogera113@nifty.com

別紙2

木端（こっば）人形（木片人形）は、大正8年洋画家・版画家山本鼎が起こした農民美術運動のなかでも全国に広がりを見せたもののひとつである。

児童自由画教育運動（*）とともに大きな反響を呼んだ農民美術運動は、柳宗悦らの民芸運動が民芸の中の良いものを発掘する、という方向だったのとは逆に、庶民の中に入り込んで自分たちの生活の中の良いものや自分自身を発掘させる、という方向性をもって進展していった。

『自分が直接感じたものが尊い。そこから種々の仕事が生まれてくるものでなければならない』全国に100以上の生産組合が誕生し、庶民の生活そのものを題材として木端人形は作りだされていった。大胆なカットを特徴としていて、しかも彫刻的要素がしっかりしており、趣のあるデザインは多くのファンのところをとらえた。一方では量産されるに連れ、粗悪品も多く生産されるようになり、やがて昭和の恐慌や第二次世界大戦の足音が大きくなったことにより、生産はまったく行われなくなった。とはいえ、いまでいう第三セクターの形式をもって進められたこの運動は、今考えても大変ユニークな取り組みだったことがわかる。

*児童自由画教育運動：

創作版画運動、農民美術運動とともに、大正8年山本鼎が起こした社会運動。

『児童はやがて来る人間としてのすべての能力の芽が内包していると思う。その能力を健康に伸ばすのが教育の方法ではないか。そんな考えから児童画の教育を改革する運動を起こしたい』児童に自由に絵を描かせることを主張した山本の先見性がうかがえる言葉である。

